

修正後 2 6月21日 月例連絡会議事録

1. 日時：2023年6月21日（水）19時30分～21時00分

2. オンライン形式：Zoom ミーティング

3. 参加者：16名（敬称略）

竹原 貢、辻 昭彦、東海林修、迫 一美、塚田光博、広瀬富子、田中清治、中田幹雄、前川泰雄、杉山初江、足立万理子、石川綾子、成井敏昭、服部安恵 吉浜健二、宮坂きよ子
（記）

4. テーマ

（1）新塾員卒論発表会について（塚田渉外部長）

（2）KTM 郵送会員向けの情報発信について（竹原会長）

（3）その他

5. 議事

（1）新塾員卒論発表会について

塚田光博渉外部長がレジュメに沿って説明。

第1部：新塾員卒業論文発表会スケジュール

1. 日 時：2023年6月24日（土） 12：30 開場 13：00～17：30

2. 会 場：日吉キャンパス 日吉第4校舎独立館3階（D309 教室）

※資料代100円、関係者は12：15集合

📍日吉キャンパス案内：<https://www.keio.ac.jp/ja/maps/hiyoshi.html>

3. 卒業論文発表（発表順となります。）※論文発表35分／質疑応答等5分

1) 田島 真由美君 2022年9月（文I・横浜慶友会） 13：10～13：50

「女子受刑者における職業訓練の可能性について」

2) 福里 清信君 2020年3月（経済・横浜慶友会） 13：50～14：30

「沖縄戦後経済における金門クラブとその役割」

-----休憩10分-----

3) 磯上しのぶ君 2022年9月（文I・横浜慶友会） 14：40～15：20

「ペラギウスにおける信仰の在り方について」

～アウグスティヌスとの比較を通して～

4) 只野 孝子君 2022年3月（経済・横浜慶友会） 15：20～16：00

「高齢者に対する生活保護制度に関する考察」

-----休憩10分-----

5) 新沼 裕嗣君 2021年9月（法乙・横浜慶友会） 16：10～16：50

「衆議院選挙公報と議員属性及び国会活動との関係に関する考察」

4. 会長挨拶 竹原会長（記念品：田島、磯上） 16：50～17：00

5. 閉会 記念撮影（撮影場所教室） 17：00～17：15

6. 片付け・懇親会準備 17：15～17：30

第2部：歓迎懇親会 ※事前申込制

1. 時 間 発表会後 18：00～20：00（17：45から受付）

2. 会 場： 日吉キャンパス ファカルティラウンジ

会費：塾員 4,500 円 塾生 3,500 円

- ・ 塾歌、会長挨拶乾杯、記念品贈呈、発表者から一言、歓談、発表者・役員・参加者（新塾員を主に）から一言、バイオリン演奏
- ・ 若き血、記念撮影

なお、役割分担、懇親会の詳細は割愛する。

(2) KTM 郵送会員向けの情報発信について（竹原会長）

会報の発行時期の見直し並びに郵送会員 向け情報誌発行提案 の二つの提案を行いたい。

- ・ 今、250 名位の会員のうち、30 名位がメール環境を持たない。
- ・ それらの方に「ホームページに出ている情報やメールで受けられる情報を、パソコンやスマホで享受している会員と同じような情報を与えること」を 1 回スタートとしてやってみたい。以下の二つの提案をいたします。

提案Ⅰ．会報発行時期の見直し

総会決定事項並びに行事情報を速やかに全会員に伝えるために会報発行時期を見直したい。

- ・ 現在会報は 5 月、10 月に発行している。→できれば 1 月、8 月に発行したい。
- ・ その理由は、行事の会報掲載の待ち時間、特に総会決定事項が、現在 Max7 ヶ月ほどであるので、4 ヶ月ほどに短縮したい。
- ・ 現在年間行事を見ると 10 月に大きな山があります。10 月に会報を発行した後、10 月の役員会 2 回、慶早交流会、11 月の総会、12 月の忘年会などの記事は 5 月の会報でお知らせされている。
- ・ 行事が行われてからお知らせまでが 7 ヶ月も経っているものを見ていただいている。これは遅すぎると感じる。1 月に会報を発行すれば 3 ヶ月程度で新しい内にお知らせすることができる。
- ・ そして、4 月の慶早交流会、6 月の卒論発表会、国内研修会は 8 月に会報を発行して掲載すれば、やはり新しい話題としてお知らせすることができる。また、1 月発行の活動計画を会報に取込むことで、郵送コストを節約できる。

提案Ⅱ．郵送会員向け新規情報発行（情報ダイジェスト版）について

- 1) H/P の充実を踏まえ全会員に等しい情報量の提供を行いたい。
現在、パソコンでホームページや三田会だより、会員メールをご覧になれる会員は、多くの情報を得ているが、パソコンを使わない会員は同じ 2,000 円会費を支払いながら、大変少ない情報の享受でしかない。そこで、パソコンを使わない郵送会員にも平等に情報を送りたいと考えた。郵送会員に新規情報の提供を行いたい。全会員に情報をできるだけ平等にギブしたいと思います。
- 2) 新規情報は特に塾長の考えていることや通信生の入学数や卒業生数などの「三田会だより」情報を中心に編集したらどうかと考えている。会報発行時期見直しに合わせると 4 月、10 月が候補月
- 3) 会員要望に備え会報の発行頻度増加に備えるという意味もある。

○会報発行・情報ダイジェスト発行時期の計画

① 2023年役員会・総会に提案

② 役員会・総会の賛同を得て

- ・会報は作ってくれる人は大変だと思うが、2024年1月からスタートしたらどうか
- ・情報ダイジェストは2024年4月スタートしたらどうか。
- ・参考として地域三田会の総会・会報発行時期を資料として提示。
- ・それぞれの地域三田会の総会時期と会報発行時期をみると、総会があつてから会報発行までの時間が当会よりもずっと短い。特に東京通信三田会は年4回、6月、9月、12月、3月に発行していて、情報発信が多い。
- ・当会は総会があつてそこで決ったことが会報によって知らされるのが、7ヶ月も先と際立って長いことは実に残念だと思っている。
- ・もっとタイムリーに情報を提供したいというのが私の主旨です。みなさんから過去の経験を含めてどう思われるか提案を致します。

【提案に関する質疑応答・意見等】

質問

- ・総会前に、総会のお知らせと出欠を確認するためと忘年会の出欠も含めて、ハガキを出している。これまでは10月の会報発送時に同封したが、新しい計画だとそれができなくなる。今後それが情報ダイジェスト版で出すか、他の方法で考える必要はある。→検討課題とする。
- ・会報が1月に発行となると、これまでやってきた1月の年間行事予定などのお知らせの作業をしないですむので、かなり楽になり、大変いいと思います。郵送料もかからないし、手間も省けるという意味です。

回答

- ・8月の会報の中で、総会案内と振込用紙を入れるというように頭の中では考えていました。総会案内と振込用紙をいつ入れるかという問題を確認しました。1月では遅すぎますね。8月だとちょっと間延びしていますね。→検討課題とする。

意見

- ・新年度用会費徴収の振込用紙を入れるのが8月ではちょっと早すぎて、今年度のまだ振込んでいない人用かと思われてしまいますし、1月では遅くなってしまいます。

質問

- ①今までの会報の他に情報ダイジェストが2つ入るといっていい感じですか？ ②ページ数としてはどれくらいですか？③発送作業は手作業でやるのですか？だれがやるのですか？

回答

- ・情報ダイジェストは県民センターで印刷されたA4が何枚か位というイメージです。発送作業は会報と同じところでやってもいいと思います。現行の中越運送は原稿を送ると印刷も発送作業もできます。
- ・ただ、そうすると費用がかかります。全員に配るとなると3回位ということになりますかね。今のところ当会には金もないし、作る技量もないですから。提案としては思い入れで年4回発行したいという思いで提案しています。
- ・というのは、どこがハッピーな情報提供をしているかといいますと、東京通信三田会は会費が3,000円ということもあるのですが、年4回会報を出していて、大変いい感じでき

ていました。「これはいいなあ」、と思いました。ただ、神奈川は金もないし、技量もないので、そうはいかないのですけれど、3回くらいは出したいですね。

質問

会報の時期が変るとなると今は春号と秋号ですが、それはどうなるのか？

回答

- ・情報ダイジェストは会報ではないので。ホームページを見ることが出来ない人に少しでも平等に情報提供をしたいという思いで考えているのであって、それが軌道に乗れば、年3回の会報、もしくは4回の会報の発行にしていけたらいいと思っています。

整理

- ・分り易く整理すると、会報というのは年2回全員に送っていて公平に情報が行っていきます。ただ、メールとかできる人はHPやメールで余分に情報をもらっている。ところがそれが出来ない人がいる。そこを埋めるために、情報ダイジェストによってその内容を送ってやりたい、という情報の凸凹をなくしたいわけですね。パソコン環境のない人は、卒業生数の情報とか、知らないのですから。
- ・(会長) そうです。ただ、第1回は全員に送って「こういうことをやる」ということを知らせたい。
- ・そうだとすると大変いいことだし、出すにあたっては、もっと機動的でいいのではないかと思います。そういうようにするというのなら、私は大賛成です。
- ・(会長) 情報ダイジェストの情報はいつ出すかを決めておくのではなくて、貯まったら出すという方向で、ということですか。現行、正会員は毎年毎年減っていつている。それを新塾員の人が入会されて補完するといった会員数で推移している状態です。パソコンを持っている正会員の人にデジタル化を推進すると、「パソコンをもっていない人を切り捨てるのか」、というイメージで受け取られる。
- ・そういう議論を何度もやっている。私は原点に立ち返って、同じ2,000円会費をいただいている人にはタイミングのずれはあっても同じ情報量をお送りするというように考えたほうがいいのではないかと考えました。そういうスタート地点にたつての今回の提案です。

意見

- ・実際作る当事者である私から発言させていただきます。竹原さんの全会員に対して同じ情報を発信するというお考えには賛成です。三田会としてやるべき事だと思っています。
- ・それと私は一番大切に思っているのですけれど、ここは三田会なので、慶應義塾がどこを向いているかということに対してあえて共有したいと思います。
- ・塾長がこの間発信されたことを私は三田会だよりで発信しました。伊藤塾長が最近一生懸命発信しているのは何かというと、「慶應義塾を塾員に助けてください。寄付をしてください。神奈川通信三田会のみなさん!」と言っている。
- ・塾長がそういう手紙をよこしたのは、40年間で1回もないです。その中で私たちこの神奈川通信三田会には寄付金は今ないので。私は神奈川通信三田会に予算がないということが心配です。
- ・今年は50周年の関係で寄付金が21万円ありました。だからこそ記念誌で50万以上使いましたけれど、新入生卒論発表会が今回リアルでできたのです。

- そんな状況ですから、お金をこれから使うことにはより慎重にやるべきです。今のままでは塾長のいうことに神奈川通信三田会は対応できないと思います。なぜならば来年会報を発送するには、会報の発送が千円、2千円でできるなら出しますが、千円、2千円ではすまないのです。ですから予算的なことを私はとつても気になります。
- それと「慶應義塾が向っている方向に合わせていくことにしませんか」、と言いたいです。三田会は何を目指しているか、私は費用をエスディージェズ（SDGS エスディージェズ：持続可能な開発目標）で誰一人取り残さない、竹原会長がおっしゃったようにメールで送っても読めない人がたくさんいると思うのです。
- 私もめがねを取ったら読めないです。そういう人達には三田会だよりも印刷物で、文字を大きくしたもので、配慮をしたものを届けるということも大事なことだと思う。
- 私は記念誌の時、配慮したつもりです。慶應義塾の方向と一緒にだから、ベクトルとして4年後、5年後、一緒の方向に進みましょうと、そういったエスディージェズで、ようするに誰一人取り残さないようにしましょう。
- 目指していることは、慶應義塾の藤沢校舎のあのメンバーのやっていることなのです。要は何を言いたいかというと、今は「紙をなくしましょう」という方向に進んでいるわけです。そこはちょっと逆行するのはどうかと思いつつも、竹原さんのお考えはいいと思います。
- 一方で三田会だよりを読んでいる人は、230人登録者はいるのですが、半分の人は見ていないのです。なので、メールでなく、印刷物で出したいのです。会報にちゃんと載せて配りたいのです。
- もう一つ、竹原さんのお考えには基本的には賛成しています。その中で一つとつても気になることが、東京通信三田会が4回会報を出しているのに対して神奈川は2回しか出していないということ、本当はそこに拘りたいのですが、私は回数ではないと思っているのです。4回出しているからいいとか、2回しか出していないから駄目で、価値がないというのは、私はちょっと違うなと思っているのです。
- なぜかというと、記念誌は物量的に多かったのです。一番私がすごい印象が深かったのが去年、10月の時に経理の平田さんが、県民センターで言った一言が私は忘れられないのです。何て言ったかというと、「10年間会費を払ってきて、とつても良かったです」とおっしゃったんです。あの会報を見た時に。「そりゃやっぱ物理的な大きさが受け手にとって大きいのだな」と思いました。
- こういったことは、私は広告代理店で何十年もやってきた経験においてとつても多いのです。例えば、記念誌をばらけて皆さんに渡したら「こんなものか」ってなります。だから、竹原さんがおっしゃったように4回、5回でもいいのですが、予算がありさえすればです。こういう状況にした張本人は私です。とつても申し訳ないと思います。
- 印刷物で出したいが、経費が厳しいのでダイジェスト版みたいにするということ、それはとつてもいいことだなと思います。それには賛同します。1月とか、8月とか、時期をずらすのは広報としたらいくらでもできることなので。発行月は決算も一緒に含んでいると思うので、決算も一緒にずらすならいいかな、と思います。
- (竹原会長) 有り難うございます。一つだけ、費用のことは、これから新年度にかけて、各部で予算を計上してもらいたいと考えています。

(3) その他

- ・会長より、「毎月の月例会が続きましたので、7月はお休みにして8月に行いたい」と申し出があったが、吉浜顧問から「会報発行の件など討議事項が残っているので7月もやったほうがいいのではないか」と意見があり、7月月例会は検討事項となった。次回の月例会で、もう一度会報の発行時期の見直し、ならびに郵送会員向け情報誌発行について提案したい。それから個人情報保護法についてもう一度やりたいと考えている。
- ・塾員部から、「8月、9月入会者の年会費は、あと2ヶ月未満で新年度になることから新年度入金を取ることを例年通り融通させていただきますが、よろしいでしょうか?」と確認発言があった。会長から「OK」という確認返答があった。

○発言をされていない方に一言ずつ

- ・予算がないというが経費を削減するとかの方法はないか?→田中さん、会報発送費もクロネコが郵便局と提携したので、確実に送料は高くなるであろうし、印刷代も高くなるだろうと予想できる。経費削減は難しい。
- ・竹原さんの意図も田中さんの意図もわかる。会費増額するのでなければ、会報は年2回でいい。コストはかけないほうがいい。
- ・費用削減が難しいならダイジェスト版は出さなくて良い。
- ・会報の回数より中身が重要なのではないか。
- ・情報提供は良いが、情報提供はHPに誘導していく方がいいのではないか。
- ・卒論発表会に70名の参加は驚きである。
- ・活動の把握がまだできていないが、できる部分は協力していきたい。

以上